

### 重点3 地域生活支援の充実

- 精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう、精神科病院や相談支援事業所と連携を図りながら、長期入院者の退院支援（地域移行支援）を推進します
- 精神障害者が、病院や自宅以外で緊急一時的に過ごすことが可能なスペースの確保について検討を行います。
- アルコールや薬物、ギャンブルなど依存症対策について、事業所間の連携や理解促進を図る取組みを推進します。
- 地域生活支援拠点の整備については、地域自立支援協議会や市内事業所とも連携、協力を図りながら、「わくらす武蔵野」を中心とした拠点整備を進めていきます。
- 実態調査や団体ヒアリングの結果から、充実すべき障害者福祉施策として「住宅の整備・住宅探しの支援」、「地域生活支援施設の充実」など住まいに関する要望があげられています。  
障害のある方が、住み慣れた武蔵野市で安心した生活が継続できるよう、引き続きグループホームの整備や親なき後を見据えた在宅支援を推進するとともに、障害者の地域生活を支える支援のあり方について検討を行います。
- 令和2年12月に桜堤地区（旧くぬぎ園跡地）に開設予定の日中サービス支援型グループホームには、訪問看護ステーションが併設される予定です。障害者の高齢化や重度化への対応が求められる中、医療的ケアが必要な方の地域生活を支援するためにも医療との連携は欠かせません。今後も保健、医療、介護、福祉の連携の推進に取り組めます。
- 実態調査では、充実すべき障害者福祉施策として「災害時の支援体制」の要望が高くなっています。災害時にも自宅で生活継続ができる自助の推進を図るとともに、障害特性に応じた情報保障のあり方など、関係部署や施設などと検討を行います。
- 少子高齢化が進む中、障害福祉分野で働く職員の人材確保や育成が課題となっています。市内で長く働いてもらえるための事業所支援や人材確保の施策を検討していくとともに、地域包括ケア人材育成センターとも連携を図り、研修会の開催など市内で働く職員への支援の充実を図ります。

- 平成29年2月に策定された「武蔵野市公共施設等総合管理計画」において、障害者福祉センターやみどりのこども館など4施設が整備対象となりました。障害者福祉センターは昭和55（1980）年に設立され、近年設備等の老朽化が進み、長期休館を必要とする大規模修繕が必要とされています。今後、関係機関とも調整しながら、大規模修繕の時期や内容について検討を行います。
- 旧なごみの家やグループホーム Renga の利活用について、市内の施設整備状況を鑑みながら検討していきます。